

# J.S.S.W NEWS

No.139

Contents

日本ソーシャルワーク学会通信

2024年6月10日

【発行責任者】 小山 隆

【編集責任者】 空閑 浩人

I. 巻頭言 ソーシャルワークが対峙する「課題解決」という課題 ..... 川島 ゆり子	1
II. 「2024年度・第1回理事会」(2024年5月28日開催)報告	2
III. 「2024年度・第41回大会」(2024年6月29日・30日)の お知らせ	4
IV. 新入会員の声	6
V. 『ソーシャルワーカーのための研究ガイドブック』 & 『ソーシャルワーク研究』のご案内	7
編集後記	8

## I. 巻頭言

### ソーシャルワークが対峙する「課題解決」という課題

日本福祉大学 川島 ゆり子

(学会理事／研究推進第1委員会・研究推進第3委員会)

「誰ひとり取り残さない」これは、SDGsの目指す持続可能で多様性と包摂性のある社会を開発する目標として掲げられたスローガンである。また、今わが国で目指されている地域共生社会の実現に向けた様々な制度政策の流れの中でも、制度の狭間にもれ落ちるような、誰にも助けてと言えないような状況に対して、まずは総合相談で受け止め、包括的に支援を展開することが目指されている。

それほどまでに今の社会が、ジョック・ヤングが示したように「排除型社会」、あるいは包摂するように見せかけてさらに排除を重ねる「過剰包摂」の状況だということであろう。

「誰ひとり取り残さない」地域社会の姿は、社会正義、人権、集団的責任、および多様性尊重の諸原理がソーシャルワークの中核であると示したグローバル定義と重なり、その実現に向けてソーシャルワークへの期待が高まっているということは、いうまでもない。

しかし、一方で社会変革を目指すという使命をもつソーシャルワークとして、政策として進められる地域共生社会の実現に向けての流れを注視し、社会正義の実現を目指すうえで看過できないことがあれば制度に対峙していくこともまた忘れてはならない。

そこで、今一度考えてみたいことが「課題解決」の意味である。地域共生社会推進検討会の最終とりまとめ(2018)において、対人援助のアプローチとして「課題解決に向けたアプローチ」と「つながり続けるアプローチ」の2つが示された。また社会福祉法4条には、地域住民等が支援関係機関とともに「地域生活課題の解決」をめざす地域福祉推進の方向性が示されている。

この「課題解決」とは、いったい何を指すのだろうか。誰のために何を指すのかということについては法律では示されていない。また、包括的支援体制を具体的に進めるしくみとして始まった重層的支援体制整備事業では、多機関協働による重層的支援会議が設定されており、いわゆる困難ケースに対してプランニングを立て課題解決をめざすとされている。単年度事業として成果報告が求められることとなり、当然、解決に至ったケース数のカウントも報告の対象となるだろう。

現場で日々ケースに取り組むソーシャルワーカーは、制度に規定されるまでもなくクライアントにつながり続けようと努めているし、そのなかでモデルのような「the 解決」には程遠い状況であったとしても、日々の関りのなかでのクライアントの変化を信じ、共に歩んでいる。

「課題解決」の意義を否定するということを意図しているのではない。しかし、グローバル定義に示される「生活課題に取り組む」と「課題解決」が同義とは思えないのである。生活課題にクライアントとともに取り組むプロセスの先に1つの課題解決があるのではなく、そのプロセスの中にいくつもの小さな変化がちりばめられ、その小さなプラスの変化が社会の中で集積されていくことにこそ、ソーシャルワークの意義があるのではないか。逆説的に言えば、そのような小さな変化を大切にせず、課題解決という定型化された姿にクライアントを押し込んでしまうことは、過剰包摂につながる可能性すらある。「課題解決」の両義性について、ソーシャルワーク実践に根差しながらこれらも考えていきたいと思う。

## Ⅱ. 「2024 年度第 1 回理事会」 報告

○日 時：2024 年 5 月 19 日（日）18 時～20 時 WEB（ZOOM）会議

○出席・欠席者一覧

役職	氏名	所属	出欠
会長	小山 隆	同志社大学	出
副会長	久保 美紀	明治学院大学	出
	和気 純子	東京都立大学	出
	大島 巖	東北福祉大学	出
	空閑 浩人	同志社大学	出
理事	池田 雅子	北星学園大学	出
	大谷 京子	日本福祉大学	出
	木村 容子	日本社会事業大学	委任状
	横山登志子	札幌学院大学	委任状
	志水 幸	北海道医療大学	出
	川島ゆり子	日本福祉大学	出
	荒井 浩道	駒澤大学	出
	岡田 まり	立命館大学	出
	佐藤 俊一	NPO 法人スピリチュアルケア研究会ちば	出
	白川 充	仙台白百合女子大学	出
	杉野 聖子	江戸川学園おおたかの森専門学校	委任状
	保正 友子	日本福祉大学	出
	ヴィラーグ・ヴィクトル	日本社会事業大学	出
監事	黒木 保博	長野大学	出
	福山 和女	ルーテル学院大学	出
庶務	小野セレストア摩耶	同志社大学	出

\*次期理事就任予定者：渡辺裕一（武蔵野大学）出席

### 1. 2024 年度役員体制 & 委員会体制について

2023 年度に実施された役員選挙の結果（学会 HP & ニュースレターで公示済）を踏まえて、2024 年度役員体制 & 委員会体制について協議を行った。正式には、6 月 30 日の総会で提案・承認となるが、新旧の理事・委員が引継ぎを含めて活動予定を確認した。

### 2. 各委員会より活動報告（前回理事会以降）・2024 年度活動予定等

#### (1) 研究推進第 1 委員会

- 1) 学会誌編集委員会より、学会誌第 48 号の編集進捗状況について報告があった。6 月末発行見込み。
- 2) 学会賞選考委員会より、2024 年度の選考を終了した旨報告があった。選考の結果、学術賞・学術奨励

賞とも、該当者なしとの報告があり、理事会で審議・承認された。

- 3) 研究奨励委員会より、現在、申請を受付中（締切は2024年5月末日）である旨報告があった。結果については、6月23日（日）開催予定の理事会で審議事項とする予定。

## (2) 研究推進第2委員会

- 1) 2024年第41回大会について、「第3報」をメールマガジン（5月号）で配信した旨の報告があった。
- 2) 2025年第42回大会の開催校について打診しており、内諾を得ている旨報告があった。
- 3) 2024年度の研究セミナーについて、企画を検討中である旨の報告があった。
- 4) 共同研究について、以下の通り報告があった。

「多様性と文化的コンピテンスにもとづくソーシャルワークのあり方に関する研究会」

- ・2024年4月20日（土）午後5時～7時 オンラインにて2024年度第1回研究会を開催（非公開）今年度の活動計画について議論。今後、3回の公開研究会の実施と文献化にむけた協議を継続する。
- ・NASWの「SW実践における文化的コンピテンスの基準と指標」（仮訳）について、用語や訳語等について検討。修正のうえ、大会前にはHPで公開を予定している。

## (3) 研究推進第3委員会

- 1) 社会貢献推進班より、以下の通り報告があった。

### ①「ソーシャルワークコラボセミナー 2023 in 東京」開催報告

（日本ソーシャルワーク学会・東京都社会福祉協議会児童部会共同企画）

テーマ：「子どもアドボカシー」の課題と展望

- (1) 開催日時：2024年3月17日（日）13:00～17:00
- (2) 場所：研究社英語センタービル大会議室と、Zoom会議室のハイブリッド開催
- (3) 参加者：セミナー当日の参加者数は117名（対面参加者数28名・zoomアクセスレポートに基づくオンライン参加者数89名）
- (4) 主催：日本ソーシャルワーク学会、社会福祉法人東京都社会福祉協議会児童部会
- (5) 後援：（公社）日本社会福祉士会、（公社）日本精神保健福祉士協会、（公社）日本医療ソーシャルワーカー協会、（特非）日本ソーシャルワーカー協会、（一社）日本ソーシャルワーク教育学校連盟、（福）全国社会福祉協議会

### ②2024年度および2025年度のコラボ企画についての検討、準備状況について報告があった。

- 2) 出版・教材開発班より、以下の通り報告があった。

### ①「実践研究支援ワークショップ・フォローアップ研修」開催報告

- (1) 開催日時：2024年3月31日（日）13:00～16:00
- (2) 開催方法：オンラインにより開催（Zoom）
- (3) 研修内容：今年6月に開催される第41回大会での発表を目指す方だけではなく、参加者全員にご自身の研究について報告していただき、講師陣からのフィードバックを行う。それぞれの進捗状況の中での研究に関する疑問（迷いや悩み等）にも対応した。
- (4) 参加費：無料 (5) 参加者：6名

### ②2024年度の実践研究ワークショップについて、以下の通り報告があった。

- (1) 例年のとおり、3回の開催を予定している
- (2) 動画撮影や今後のWSの発展方向性を検討する
- (3) 『ソーシャルワーカーのための研究ガイドブック』の販売促進を委員会としても行う。

#### (4) 総務委員会

- 1) メールマガジン：2024年4月(126)号～5月(127)号発行済、ニュースレター第138号を発行済(2024年3月31日)、また第139号を編集(2024年6月上旬発行予定)の報告があった。
- 2) 2024年度監査日程や実施体制についての報告があった。

### 3. 会員の動向(前回理事会2024年3月9日以降～2024年5月18日)

以下の方々の入会、退会について承認された。

#### (1) 入会(9名)

会員種別	氏名	所属
正会員	福井由美子	医療法人社団 原クリニック
正会員	後藤真一郎	帝京平成大学 人文社会学部 人間文化学科
正会員	神田 歩	日本福祉大学 東京サテライト
正会員	安 然	駒沢大学 人文科学研究科 社会学専攻
正会員	水間喜美子	鹿児島県大学大学院歯学総合研究科 離島へき地医療人育成センター
正会員	東田 全央	淑徳大学アジア国際社会福祉研究所
正会員	鹿山 誉史	長崎純心大学
正会員	今村 洋子	
正会員	菱谷 隆宏	社会福祉法人恩賜財団 済生会和歌山病院

#### (2) 退会(12名)

加登田恵子 忠澤智巳 岩田美香 梅谷進康 坂本道子 伊藤信司 佐々木敦 川村隆彦 増田和高 井上敦 劉鵬瑤 瀬戸翔太郎

### 4. 2024年度理事会の日程について

2024年度の理事会日程について、以下の通り確認された。

- ・次回(2024年度第2回)理事会：6月23日(日)18時～予定(オンライン開催)
- \*議題は主に総会での審議内容：2023年度活動報告&決算、2024年度活動計画&予算ほか
- ・第3回理事会：2024年11月頃
- ・第4回理事会：2025年1月頃

### 5. その他

- ・久保理事より雑誌『ソーシャルワーク研究』の企画案(本学会担当回)について報告があった。
- ・理事会終了後に、各委員会に分かれての打ち合わせを行った。

## Ⅲ. 日本ソーシャルワーク学会「2024年度・第41回大会」 のお知らせ

### 大会テーマ「多様性×包摂性～誰一人取り残さないソーシャルワーク～」

<開催趣旨>

グローバル化の進展は、国籍、民族、性別、性的指向、障がい、年齢、宗教など多様な特性をもつ人々の共生を必然とする。しかし、戦後、福祉六法体制により、年齢や障がいなどの属性によって縦割的に発展してきた日本の社会福祉システムは、多様化、複合化する人々のニーズに十分こたえられていない現

状がある。もとより、「誰一人取り残さない」ことがソーシャルワークの真髓であり、その実現にむけて様々な課題提起や先進的な取り組みもなされている。国においても領域をつなぎ、包括的な支援体制を可能にする制度を創設し、孤立・孤独への対策にも着手したところであるが、その取り組みには依然として大きな壁が立ちはだかっている。本大会では、このような問題意識のもと、多様性と包摂性を担保し、誰一人取り残さないソーシャルワークの実現にむけて、その現状と課題を研究者と実践者双方の視点を交えながら議論し、求められる革新を展望する。

日程：2024年6月29日、30日

会場：東京都立大学 南大沢キャンパス（八王子市南大沢1-1）

大会テーマ案：「多様性×包摂性～誰一人取り残さないソーシャルワーク～」

参加費：会員 7,000円 非会員 8,000円 学生 3,000円 情報交換会：会費 5,000円

形態：対面開催

主催：日本ソーシャルワーク学会 第41回大会実行委員会

実行委員長：和気純子（東京都立大学）

共催団体 【東京都】 公益社団法人東京社会福祉士会 一般社団法人東京精神保健福祉士協会  
一般社団法人東京都医療ソーシャルワーカー協会  
【全国団体】 公益社団法人日本社会福祉士会 公益社団法人日本精神保健福祉士協会  
公益社団法人日本医療ソーシャルワーカー協会  
特定非営利活動法人日本ソーシャルワーカー協会  
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟

#### 【プログラム】

○1日目：6月29日（土）

\* 基調講演 アントワネット・ロンバード（国際ソーシャルワーク学校連盟・次期会長予定者）

テーマ「ソーシャルワークと社会開発にむけたグローバル・アジェンダ～包摂的な社会変容の共同構築」

・コメンテーター：小原真知子（日本社会事業大学・IFSW-AP会長）

\* 大会校主催シンポジウム 「多様性×包摂性とソーシャルワーク」

・コーディネーター：荒井浩道（駒澤大学）

・シンポジスト：加山弾（東洋大学）

小林聖子（豊島区民社会福祉協議会）

瀧脇憲（自立支援センターふるさとの会）

横田千代子（女性自立支援施設いずみ寮）

・コメンテーター：松永実千代（東京精神保健福祉士協会）

アントワネット・ロンバード（国際ソーシャルワーク学校連盟）

\* 自由研究発表①

\* 情報交換会（18時～）

○2日目：6月30日（日）

\* 学会企画シンポジウム

テーマ「文化的コンピテンシとソーシャルワーク～国籍、在留資格を超えて～」

・コーディネーター：ヴィラーク・ヴィクトル（日本社会事業大学）

・シンポジスト：武田丈（関西学院大学）

杉山聖子（入管収容問題を考えるソーシャルワーカーネットワーク）



南野奈津子（東洋大学）

門美由紀（横浜市国際交流協会）

・コメンテーター：岡野範子（東京社会福祉士会）

森恭子（日本女子大学）

\* 年次総会

\* 自由研究発表②

第41回大会の参加申込は、6月25日（火）締切です。学会ホームページからお願いします。  
大会のプログラム等詳細については、学会ホームページでもお知らせしています。

## IV. 新入会員の声

### 入会にあたってのご挨拶

国立病院機構大阪南医療センター 萬谷 和広

この度、日本ソーシャルワーク学会へ入会させていただきました萬谷和広と申します。私は、大学院卒業後、子ども家庭センターでの勤務を経て、現在、医療機関で医療ソーシャルワーカーとして勤務をしています。

現場では、理論に基づいた実践を心掛けておりますが、時に、目の前で起きている事象の説明がつかず、あらためて整理する必要性や構造を明確にしていくことが求められる場面に遭遇することがあります。

本学会の入会は、そんな臨床の場での疑問を解消するために、自身の研究の質を高め、実践に援用していく学びを得たいという思いからです。学会では、学術大会や研修会への参加、また先生方から学びをいただきながら、研鑽を積んでいきたいと考えます。どうぞ、よろしく願いいたします。

### 入会にあたって

立教大学コミュニティ福祉学部 篠崎 ひかる

この度、日本ソーシャルワーク学会に入会いたしました篠崎ひかると申します。大学院修了後から、教育機関で社会福祉士の養成や研究を行っています。現在は立教大学コミュニティ福祉学部に所属し、ソーシャルワークの理論と方法や、実習・演習科目などの授業を担当しています。

関心のあるテーマは、犯罪をした人に対する地域でのソーシャルワークです。近年は、政策としても司法と福祉の連携による再犯防止が推進されており、犯罪をした人に対する地域での関わりが長期化かつ多様化しています。このような流れの中で、いま一度ソーシャルワークの専門性や価値倫理に基づく研究の必要性を感じるようになりました。現在は、犯罪をした人への差別や排除に対するアプローチや、人権を基盤としたアプローチに関心をもって研究を進めています。

学会への入会をきっかけに、刑事司法に関係する分野に限らず、さまざまな分野の研究と出会い、自分自身の学びを深めていきたいと考えています。これからどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 入会にあたってのご挨拶

愛知教育大学 教育学部福祉講座 篠原 拓也

この度、日本ソーシャルワーク学会に入会致しました篠原拓也と申します。愛知教育大学で社会福祉・ソーシャルワークの研究・教育に携わっております。専門は社会福祉原論です。奈良県の奈良教育大学、福島県の東日本国際大学、神奈川県 of 田園調布学園大学に勤務した後、2024年度より愛知教育大学に所属しております。

主に理論研究をしておりますが、かれこれ3年程、東日本大震災の被災地である福島県浜通り地方を地元の学生・卒業生らとともに巡る「浜通り震災ゼミ」において、伝承・復興のあり方を考えております。フィールドワークを通して災害や災害ソーシャルワークについて考えているところです。

本学会への入会を機に、社会福祉という広い世界でソーシャルワークのもつ使命や役割について考えを深めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

## V. 『ソーシャルワーカーのための研究ガイドブック』 & 『ソーシャルワーク研究』のご案内

- (1) 『ソーシャルワーカーのための研究ガイドブックー実践と研究を結びつけるプロセスと方法ー』（日本ソーシャルワーク学会監修、中央法規出版、2019年）

ソーシャルワーカーが初めて研究に取り組む際のプロセスを基礎から解説。研究デザイン、研究倫理、データの集め方、分析方法、学会発表、学会論文のまとめ方等に加え、実際の研究も紹介・解説。実践を研究に結び付ける「研究できるソーシャルワーカー」になるための手引書。

（書籍データ：2019年発行。B5版 290頁、3,300円）



- (2) 社会福祉実践の総合情報誌『ソーシャルワーク研究』

1975（昭和50）年の創刊以来、社会福祉実践の総合研究誌として愛読されてきました『ソーシャルワーク研究』（旧・相川書房刊）が、2023年にリニューアルされ、中央法規出版から年4回発行する運びとなりました。

リニューアルにあたりましては、これまでの本誌編集委員会に加えて、ソーシャルワークの実践・研究・教育にかかわる5つの団体に編集協力として参画していただきます。

「誰もが購読できて、誰もが投稿できる」という従来からの編集スタンスは変えることなく、新たなソーシャルワークの魅力を発信するように努めてまいります。

この機会にぜひご購読のお申込みのほどお願い申し上げます。



- ・編集：ソーシャルワーク研究編集委員会
- ・年4回（1月・4月・7月・10月）発行予定／B5判
- ・定価 1,650 円（本体 1,500 円＋税）／
- 年間購読 6,600 円（本体 6,000 円＋税）



## 編 集 後 記

日本ソーシャルワーク学会通信（ニュースレター）139号をお届けします。

「コロナ禍」という言葉を早くも忘れてしまうような勢いで、観光地をはじめとしてあちこちでの人びとの賑わいの様子が見られます。なにもかもがコロナ前に戻った、いやコロナ前を超えたというような雰囲気、何かしらの違和感を覚えています。

というか、正直なところ、その速さに息苦しさを感じて、ついて行けない自分がいます。

6月29日（土）、30日（日）に東京都立大で第41回大会が開催されます。ソーシャルワークに携わる皆様とご一緒できることを楽しみにしています。ぜひご参加ください。

今年の夏も暑くなりそうです。皆様、どうかご自愛ください。

同志社大学 空閑 浩人  
(学会副会長／総務委員会)

### 【日本ソーシャルワーク学会事務局】

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂4-1-1 オザビル 2F (株) ワールドプランニング内

TEL：03-5206-7431 FAX：03-5206-7757

E-mail：jsssw@zfhv.ftbb.net <http://www.jsssw.org>